

平成26年度第2回江別市廃棄物減量等推進審議会会議録

日 時	平成27年2月24日（火）9時30分～11時30分
場 所	江別市民会館 37号室
出席委員	押谷会長、佐藤副会長、蛭名委員、奥谷委員、林倉委員、深瀬委員、星委員、大藤委員、最上委員、森木委員（10名）
欠席委員	林委員、村田委員、山崎委員（3名）
事務局	後藤生活環境部長、五十嵐生活環境部次長、高橋環境室長、廣木廃棄物対策課長、中町施設管理課長、佐藤指導係長、松井減量推進係長、諏訪庶務係主任、岡田減量推進係主事、佐藤減量推進係主事（10名）
傍聴者	3名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 生活環境部長挨拶</li> <li>3. 議事（議題） <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）報告事項 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 事業系ごみ組成分析結果について</li> <li>② 事業所アンケート調査結果について</li> <li>③ 市民アンケート調査結果概要について</li> <li>④ 江別市一般廃棄物処理基本計画中間見直しについて</li> </ol> </li> <li>（2）その他 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 廃棄物の不法投棄等の情報提供に関する協定の締結について</li> <li>② 古着・古布、小型家電の回収状況について</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>4. 閉会</li> </ol>
配布資料	資料1 事業系ごみ組成分析結果 資料2 事業所アンケート調査結果 資料3 江別市ごみと資源物に関する市民アンケート 資料4 江別市一般廃棄物処理基本計画中間見直し策定スケジュール概要 資料5 古着・古布拠点回収量月別一覧

▼会議内容

1 開会

○廃棄物対策課長

本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。本日は全委員13人中、10人の出席で過半数を超えており、会議が成立していることを報告します。

ただいまより、平成26年度第2回江別市廃棄物減量等推進審議会を開会します。

2 挨拶

○生活環境部長

○廃棄物対策課長（審議会の公開について説明、傍聴者入室、傍聴者への注意）

3 議事

(1) 報告事項

① 事業系ごみ組成分析結果について

○減量推進係員（資料1により説明）

○会長

組成分析の結果、許可業者採取分のうち、資源化できるものの割合が前回の調査と比較して可燃ごみ、不燃ごみ共に増加していますが、資源化を推進していく上で、事業者に対して指導等を行っていますか。

○減量推進係長

事業所に対しては、講習会やパンフレットの配布、ホームページ等で啓発を行っていますが、組成分析の結果からまだまだPR不足であると感じていますので、次年度以降も事業所に対して積極的によりわかりやすいPRを心掛けて行きたいと考えています。

○大藤委員

不燃ごみ組成分析の結果から、ガラスびんには資源化できるものとできないものがありますが、具体的にどのようなガラスびんが資源化できないものになりますか。

○減量推進係長

割れたガラス（色ごとに選別するのが困難なため）や、色のついた輸入ワイン（組成が耐熱ガラスのものが混入すると品質の低下を招くため）等は資源化できないものになります。

○大藤委員

町内会等で行っている集団資源回収のガラスびん回収について、江別市で発行している分別の手引きの集団資源回収品目一覧には資源化できないびんについての記載がないため、わかりづらいと思います。

○減量推進係長

今年の9月に分別の手引きを発行しますので、今回いただいた意見を踏まえてより市民の皆さんがわかりやすい周知の方法等を検討しながら作成していきたいと思えます。

○林倉委員

事業系ごみ組成分析結果のパーセンテージは重量ベースですか。

○減量推進係員

重量ベースで集計しています。

○会長

乾燥させたうえでの重量ベースですか。

○減量推進係員

いいえ、出てきた検体のまま（湿ベース）の重量ベースとなっています。

○林倉委員

許可業者採取分の可燃ごみの組成分析の結果、軟質プラスチックが32%も占めており、また、軟質プラスチックは比重が軽いことも考慮すると、相当量の軟質プラスチックが排出されていることに収集に携わっている立場として驚きを感じました。

○会長

事業系ごみ組成分析の軟質プラスチックと硬質プラスチックはどのように分類していますか。

○減量推進係員

家庭ごみと同様の分類で行っています。具体的には弁当ガラや薄いプラスチック等を軟質プラスチック（白色トレイは資源化できるものに分類しているため除外）、厚みのあるプラスチック等を硬質プラスチックとして分類しています。

○林倉委員

検体数が5検体と限られているので誤差は出るかと思いますが、食品も含まれているサンプリングであるならば、軟質プラスチックの比率が高いと感じました。

○会長

採取した検体をそのままサンプリングするか、または、かき混ぜてできるだけ均一にしてサンプリングするかによっても結果は変わってくると思いますので、次回以降の組成分析の際には留意していただきたいと思います。

○会長

他に何かございますか。

それでは、次の議題に進みます。

## ②事業所アンケートの調査結果について

○減量推進係員（資料2により説明）

○会長

事業所の業種別、規模別等でクロス集計を行わないと全体としてなかなか見えてこないと思います。来年の中間見直しの際には慎重に対応していただければと思います。

○林倉委員

サンプル数の多い業種（医療・福祉関係、学校・幼稚園・保育所関係、レストラン）はごみの排出量が多く、また食品残渣が多く出る業種ですので、9ページの（7）ごみ・資源物の処理経費について、私たち収集業者が考えているよりも経費が高いと感じた点も、ごみの排出量の多い業種の回答数が多いことが理由の1つになっているのではないかと感じました。

次に3ページ（2）品質別排出傾向の表2-1を見ると、紙類の排出について、「ごみとして産業廃棄物処理業者へ処理委託」していると回答している事業所が多数います。しかし、紙類が産業廃棄物となる場合は、印刷工場や製紙会社、紙製の製品を作る製造会社等から出るものが対象となり、それ以外の事業所からコピー紙やシュレッダー等の表2-1に列記されているものが出た場合には、一般廃棄物となります。この設問に対して「ごみとして産業廃棄物処理業者へ処理委託」していると回答した事業所は、「業者に委託しているので産業廃棄物として処理している」と誤認識しているのではないかなと思います。

最後に各事業所に、品目毎にどの程度（イメージで）ごみを排出しているかという調査項目はありますでしょうか。もしあれば、事業所組成分析の結果と照らし合わせることで、実際の数値と排出事業所が出しているイメージを照らし合わせることが可能ではないかと思いましたので、お聞かせ願います。

○減量推進係員

今回のアンケートでは、事業所で排出される紙ごみは何パーセントか、食品残渣が何パーセントかと問うような調査項目は設けないで行いました。

○林倉委員

業者が考えている排出イメージと組成分析結果から得られた実績を照合することで、今後の進め方の参考になるのではないかと思いますので、検討していただけたらと思います。

○最上委員

資料10ページの(10)関係法令の認知度について、前回調査(平成21年度)と比較して、ほとんど変わっていないことから、日頃、事業系一般廃棄物を取り扱っている事業所に対して、周知等が足りなかったのかなと感じました。

○会長

各事業所には関係法令の通知はされていると思いますが、市の方からも周知等を行っていく方法で考えていただけたらと思います。

○会長

他に何かございますか。

それでは、次の議題に進みます。

③市民アンケートの調査結果(概要)について

○減量推進係長(資料3により説明)

○会長

これだけの多くの設問があるにも関わらず、回答率45.6%と高い数値で良かったと思いますが、アンケートの設計の仕方で誘導してしまっている設問があるように思います。例えば、資料の5ページの「関心のあるごみ問題の内容」についての設問では、該当するもの3つまで○をつけることになっていますが、このような回答方法だと選択肢の上から選ばれる傾向があるため、注意していただきたいと思います。

○蛭名委員

市で行っている小型家電、古着・古布の回収状況等について教えてください。また、アンケート結果から、ボックスを設置していることについて知らなかった、一度も利用したことがないとの意見も多数寄せられていることから、今後の周知について検討していることなどがありましたら教えてください。

○減量推進係長

古着・古布は、開始した6月から1月までの8か月間で35,159kg、小型家電は、開始した9月から1月までの5か月間で30,234kgを回収しています。周知方法については、広報えべつや自治会回覧、ホームページ等で行っています。次年度以降についても、広報えべつなどを通じて継続的に啓発していきたいと考えています。

○森木委員

ごみステーションの設置場所や形状などにばらつきがあり、統一性がなく見栄えが悪いと感じていますので、統一性を持たせるなど検討していただきたい。

#### ○佐藤副会長

ごみステーションをカラス被害などから守り、綺麗に使用していくことは自治会全体の課題であると思っています。自治会によって、お金を出し合って市販のごみステーションを購入したり、材料を購入してごみステーションを作ったりするなど様々な対応をしていますが、カラス被害を減らしていくためには、しっかりしたごみステーションを作らなければいけないと思います。市で比較的安く、丈夫なごみステーションの見本を作り、それを各自治会が類似したものを置くようにすると江別市のごみステーションはかなり綺麗になると考えています。

#### ○廃棄物対策課長

ごみステーションは自治会を含めた利用している方々で対応しているのが現状です。市としてはカラス除け対策として、カラス除けサークルの普及に努めています。カラス被害の相談があった場合には市の方から出向いて啓発等を行っているほか、広報えべつやホームページなどで啓発しているところではありますが、固定式のごみステーションは歩道に置くことができないため、市全体として普及していくことは難しいと感じています。このことから、カラス除けサークルを継続して普及することでカラス被害が減少していくのではないかと考えています。

#### ○大藤委員

古着・古布の回収について、ホームページなどで周知しているとのことですが、「終活」という言葉がメディアなどで取り上げられているように、高齢者世帯の需要は高いように思います。しかし、高齢者世帯はパソコンなどの電子機器を使わない人が多く、ホームページを見ない人が多くいると思います。また、回収拠点まで持ち込むことができなく、やむを得ず燃やせるごみに出している方もいると思いますので、自治会などで行っている集団資源回収で白系の綿50%以上の古着・古布に限定して回収するのではなく、回収ボックスと同様の基準で回収を行なえるようにする。また、市のごみ収集において古着・古布の区分を設けて出せるようにするなどの対応が必要ではないかと思っています。

#### ○廃棄物対策課長

自治会などで行っている集団資源回収は、以前は白系の綿50%以上の古着・古布に限定されており、なかなかリサイクルが進まない実情がありましたが、古着・古布の回収ボックスの設置に合わせて、集団資源回収で古着・古布を取り扱っている市内回収業者に対して働きかけを行い、市と同様の基準で回収していくとの回答をいただきました。自治会などの回収団体には、回収品目の拡大について情報を流してはいるところですが、まだ周知がなされていない現状があるように思います。今後においては、古着・古布をできるだけ集団資源回収に出してもらえよう周知を行なっていきたいと考えています。

#### ○大藤委員

自治会などの回収方法によっては、古着・古布を出した人が特定されてしまい、出しにくいこともあると思います。イベントなどで回収ボックスを設置し、スポット的に回収を行なうなど検討していただきたいと思っています。

#### ○減量推進係長

イベントでの回収については、昨年は6月に野幌公民館で行われた環境ひろば、11月にリサイクルネットワーク・えべつ主催のフリーマーケットで回収ボックスを設置し、回収を行ないました。来年度につきましても、引き続きイベントなどで回収を行い、より多くの市民の方に利用していただけるよう努めていきたいと考えています。

○林倉委員

資料9ページの資源物の排出先について、集団資源回収の割合が高いように感じましたが、北海道内の他市町村と比較してどのような状況であるのか教えてほしい。また、江別市はびんや缶の排出先が市の資源物収集よりも集団資源回収の方が多く資料からも分かりますが、集団資源回収に対してどのくらい経費をかけていますか。

○減量推進係長

集団資源回収の他市町村との比較資料などについては、後日情報提供をしていきたいと思っています。経費については、回収量1kgにつき3円の奨励金を団体にお支払いしています。

○大藤委員

自治会の役員を10年間程やっていた経験から、市の奨励金額は回収業者の売却益とほぼ同額で推移していました。市の奨励金額は高いように感じていました。

○林倉委員

資料から資源物収集の経費などが分からないため、確かなことは言えませんが、江別市は集団資源回収のインセンティブを高めているのかなと感じています。

○大藤委員

私の自治会の回収業者がペットボトルの回収を止めたため、市の資源物収集に出していた時期があり、自治会の財源を確保するために回収業者に掛け合った経緯があります。地域の人によっては集団資源回収に出さずに市の収集に出す人もいますが、市の収集に出された資源物を回収して、集団資源回収に加える人もいました。

○林倉委員

収集業者としても市の資源物収集の際には注意を払っています。

○大藤委員

夜中にも資源物を回収していく人がいたため、回覧板で注意を促したこともありました。

○林倉委員

回収業者の売却金・売却単価は相場に左右されやすいため、急に回収に来なくなるなどのトラブルは過去に事例がありましたので、安心・安全面も考慮した収集体系が必要なのではないかとということにも感じています。

○大藤委員

集団資源回収の奨励金や回収業者の売却金を用いてごみステーションなどを購入し、自治会で統一性を持たせるような方向に持っていくことで、ごみステーションを綺麗に使用していくことからいいのではないかと感じています。

○佐藤副委員長

以前に市の方で斡旋してくれたカラス除けサークルは、使い始めのころはカラス対策に効果がありましたが、管理の仕方などが悪く、板が壊れたり、網が破れたりして使い物にならなくなってしまった。奨励金などを用いて箱型のごみステーションを設置することで、当番制もなくなり望ましいと考えています。

○最上委員（報告事項②についての意見）

事業系一般廃棄物は、本来事業所で処分しなければならないが、集団資源回収に出している事業所があります。事業所が集団資源回収に出すことで本来支給してはいけない市の奨励金が自治会に入るとい事です。市として徹底的に事業所に対して指導していくべきだと思います。

○林倉委員（報告事項②についての意見）

このような背景には、自治会などから事業所に対して集団資源回収に出すように協力を仰いでいる場合もあるのかなと思います。昔は事業系の資源物は処分に費用がかかりましたが、今はきちんと分別して排出している事業所からは特別な事情などが無い限り、企業負担なしで資源物を排出できるのではないかと思います。その中の排出先の一つとして自治会を選択している事業所がいるのではないかと思います。

○大藤委員

事業所から排出される紙（シュレッターをかけた紙）は、回収業者曰く価値があり、ぜひ引き取らせて欲しいというケースもありました。

○奥谷委員

アンケートの結果から、学生が多く住む地区のごみ出しに対するマナーが良くないなどの意見が多数寄せられており、大学としても対応について問われているのかなと感じました。大学に身を置くものとして、必修講義の中でごみの問題について取り上げており、また、私のゼミでは大学構内などの清掃活動を行っていますが、大学全体までは普及していないのかなと思います。大学全体で地域と方々と連携して啓蒙普及活動を行っていくことが望ましいと考えています。

○大藤委員

学生が引っ越しをする際のごみの出し方も問題があるのではないかと思います。特に市外からの転入者は、江別市のごみの出し方などが市町村によって様々であることから分からないため、学校側で教育の中でごみの出し方について教えるべきではないかと思います。

○生活環境部長

昨年度、市内の4大学からインターンシップで学生が江別市に来ていました。そのインターンシップの中でどのようにすれば学生がごみのことを啓発してもらえるのか考えてもらったところ、ごみの出し方や江別市が行っている施策などについて「知らない」という意見が挙げられました。文京台地区でも昨年10月に文京台地区の3大学の学生、自治会の方々と懇談会を行い、その中でごみについて尋ねたところ、同様に「知らない」という答えが一番多く、市の周知がまだまだ不足していると感じました。この結果を踏まえ、今後の周知の仕方について大学の協力を得ながら、検討させていただきたいと思います。

○奥谷委員

大学では新入学生に対する講演などの機会がありますので、市の方からごみの問題について講義を行うなど検討していただけたらと思います。

○大藤委員

リサイクルマークがついているプラスチックでも、各市町村によっては回収しない品目が結構あります。一般的にプラスチック製品でリサイクルマークのついているものは、リサイクルできるという認識がありますので、わかりやすい分別の仕方を検討していただければと思います。

○深瀬委員

市では多くの取り組みをしていると感じていますが、市で行っている取り組みについて市民の方々まで通じていないのかなと思います。団体などで活動している方々は知っている方も多くいると思いますが、そうではない方々までは情報が行き渡っていないのかなと思います。極端に言えば、例えば私がこのような審議会に参加しなくても市の取り組みについて知ることができる、知る機会が増えることが望ましいと考えています。

○減量推進係長

今回提出しました市民アンケートについては概要版となっており、正式な報告書については後日、審議員の皆様へ郵送いたしますので、よろしくお願いします。

④江別市一般廃棄物処理基本計画の中間見直しについて

○廃棄物対策課長（資料4により説明）

(2)その他

①廃棄物の不法投棄等の情報提供に関する協定の締結について

○廃棄物対策課長 説明

②古着・古布、小型家電の回収状況について

○減量推進係長（資料5により説明）

○会長

事務局よりその他追加連絡事項などございますか。なければ、事務局に進行をお返しいたします。

4 閉会

○廃棄物対策課長

本日はご多用な中、ご出席いただき、大変ありがとうございました。以上をもちまして第2回江別市廃棄物減量等推進協議会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。